

## 研究室紹介

### 岐阜県農業技術センター 病理昆虫部

岐阜県農業技術センターは、県の南部に位置し、イネ、トマト、イチゴ、カキ、バラ等、主に平坦地域を中心とした県の主要品目を対象に、研究開発や技術支援に取り組んでいます。病理昆虫部は平成28年度に、それまでの環境部の病害虫部門と生物機能研究部の一部を統合して新設されました。岐阜県の農業系研究機関において、病害虫防除を担当する部署は当センターのみであり、部長のほか、研究員6名(病害担当3名、虫害担当3名)と、圃場管理職員1名で研究業務にあたっています。

以下、現在行っている主要な研究課題について、概要をご紹介します。

#### トマトの難防除病害の克服による生産の長期安定化

トマト生産の長期安定化を図るため、その難防除病害について対策技術の確立を目指しています。

地上部病害(灰色かび病、葉かび病、すすかび病)では、薬剤耐性を発達させない防除技術を確立するため、低リスク防除体系、省力的かつ効率的な防除技術、および環境改善手法による発病抑制について検討を進めています。

土壌病害(青枯病、かいよう病、半身萎凋病)では、土壌還元消毒や管理作業時の病害伝染抑制対策、耐病性品種の検討等に取り組み、作型や発病程度に応じた土壌病害対策が行えるよう、産地の栽培管理条件の調査も行っています。

#### イチゴの栽培期間を通じた微小害虫防除体系の確立

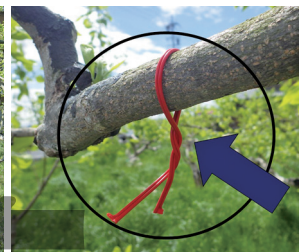
イチゴ産地では、近年被害が拡大している微小害虫の防除対策が喫緊の課題となっています。本課題では、アザミウマ類とハダニ類対策について、薬剤防除とネット等による侵入防止や天敵利用を組合せ、育苗期も含めた



天敵糸状菌の探索と利用



樹幹害虫への高濃度少量散布



交信攪乱剤の設置

総合的防除体系の構築を目指しています。

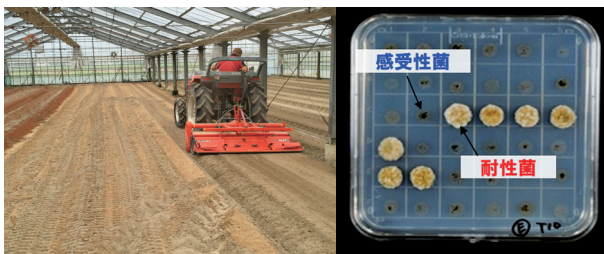
#### アザミウマ類に対する微生物農薬の実用化技術開発

野菜類の各産地では、薬剤抵抗性を獲得し易いアザミウマ類が問題となっています。そこで、高品質・安定生産のための防除技術として、微生物剤を利用した農薬開発を目指しています。性能評価試験によって、アザミウマ類に有効な天敵糸状菌株を自然界から選抜し、新規微生物農薬として実用化するため、大量生産法や防除性能を高める製剤化技術、およびその使用方法について検討しています。

#### 温暖化に適したカキ害虫防除体系の確立

温暖化の進行により、害虫発生期間の長期化や、発生世代数あるいは発生量の増加、さらにこれまで問題にならなかった潜在害虫の顕在化が懸念されています。また、これまで取り組んできた交信攪乱剤を核とした防除においても、高温により成分放出が増加し効果期間短縮が懸念されます。そこで、温暖化が進行しても対応できる、カキの害虫防除体系の確立を目指しています。

(病理昆虫部長 天野昭子)



糖蜜飼料を用いた土壌還元消毒 トマト葉かび病の耐性菌検定

〒501-1152 岐阜県岐阜市又丸729  
TEL 058-239-3131